

# 国鉄1047名解雇撤回 JR復帰判決を求める

## 東京高裁署名にご協力を



30年を超える闘いの中で、私たちはついに国家的  
の不当労働行為の真実を完全に暴き出しました。J  
R不採用とした基準そのものが不当労働行為だった  
と最高裁で認めさせ、その基準の策定をJR設立委  
が指示・決定していたのです。国鉄分割・民営化に  
よる不当解雇の責任がJRにあることが誰の目にも  
明らかになっています。

この新たな事実をもって、JRを相手に解雇撤回・  
JR復帰を求める裁判を闘っています。しかし、東  
京地裁は2024年11月13日、真実を隠して請  
求をすべて認めない反動判決を出してきました。

ただちに控訴し、闘いの場は東京高裁にうつっ  
ています。東京高裁での解雇撤回・JR復帰判決に向  
け、署名運動へのご協力をお願いいたします。

# 今こそ国鉄1047名解雇撤回を



藤田正人  
J.R. 復帰・団交開催を求める  
行政訴訟弁護団

裁判所に解雇撤回  
認めさせる運動を

東京地裁の判決は、組合側の請求を一切認めないという結論です。

裁判所は国民あるいは民衆支配の道具です。この裁判で組合を勝たせるような判決を書くことは、80年代からの新自由主義攻撃の

始まりである国鉄改革が違法だったと認めることとなります。そうなったら世の中はひっくり返ってしまう。裁判所はそういうことがないようにするための装置ですから、法廷だけでは期待の持ちようありません。

この裁判所を変えるには、やはり法廷外の闘いです。その闘いに恐怖したときに裁判官も変わる。「このままじゃまずい」と思わせるところまで運動を持っていかねばならないということだと思います。

裁判はまだ続きます。現在は控訴審ですが、最高裁での闘いもあります。その間に私たちの運動を盛り上げて、何とか裁判官を恐怖させて、変えさせます。そういう運動を繰り返していきたいです。

私たち弁護団も勝利に向けて闘います。

今もまだ運動を続けています。労働者は簡単に勝つことはできないけど、負けていない。こういう闘いをしていかないといけないと思います。

国鉄からJRになったときに採用されず解雇された。ある意味では、「中村、闘え」と言ったのが国鉄分割・民営化だと思っています。

この思いに本当に全国の仲間が応えてくれて、私たちの運動をずっと支えてくれました。そうして運動が続いてきて、戦争情勢と言われる時に「戦争絶対反対」という声を私たちがあげられる。このことに誇りを持って闘っていきたいと思います。

裁判闘争と運動で、絶対に解雇を撤回させる。全国の仲間、世界の仲間とともに、この勝利をかちとりたいたと思います。動労千葉・動労総連合はその先頭に立って闘います。

社会全体に大きな波を起こす



伊藤晃  
国鉄闘争全国運動呼びかけ人

国鉄1047名解雇撤回闘争でいま争われているのは、隠されていた不当労働行為の存在が証明されたからには、資本側が責任を取り元の雇用関

最大の成果かち  
とった署名運動



金元重  
国鉄闘争全国運動呼びかけ人

動労総連合・動労千葉が中労委を相手に提訴した行政訴訟に対して東京地裁は、組合側の主張と真実にまともに向き合わず徹底的に審理することを避け、一方的に棄却する不当判決を下しました。私たちは直ちに控訴し、国鉄1047名解雇撤回・JR復帰判決を求める闘いに取り組みます。

この裁判は以下のようなやや複雑な歴史的経過をたどりしました。

いわゆる鉄建公団訴訟（2004年）のなかで明らかにされた「名簿不記載基準の策定は不当労働行為」というJR東日本の不当労働行為責任を認定した2012年の東京地裁判決（2015年最高裁不当労働行為確定）に基づき、動労総連合は改めてJR東日本を相手取って不採用者の採用と団体交渉開催を求めたのに対し、JR東日本はこれを拒否しました。そこで動労総連合は2018年5月に千葉県労委、続いて中労委に行った不当労働行為救済申立の却下決定を受け、

係を回復すべきだ、という私たちの主張をJR側が退けたがっているからだ。それは世の中の常識が許さないことだろうが、すでに頼りなくなっている現存労働法制さえ辛抱できず、解雇の自由実現を願望する資本全体の立場からして、裁判所の頑張りが熱く期待されているのだ。

労働組合の不当な破壊が許容され、労働者が恣意的にどんどん解雇され、しかも資本・国家はこれに法的にも社会的にも無責任。この労働者の権利の根本的破壊は、現代民主主義の基底の破壊につながるのだ。

これを許さないためには、この裁判を当事者たちだけのものに終わらせることがあってはならない。社会全体に大きな波を巻き起こさなければならぬ。新たな署名活動を力あらせるために広い協力を呼びかけたい。

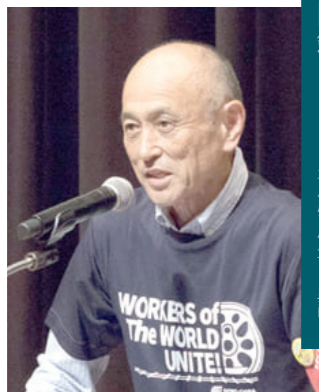
2020年7月その中労委決定を取消すこと、そして救済命令を出すように中労委に義務付けることを求めて東京地裁に提訴しました。

一審裁判では設立委員による不当労働行為を立証するために必要な井手正敬と深澤裕二の証人尋問要請を却下するなど、国鉄分割・民営化が国家的不当労働行為であったことがあからさまになることを極度に恐れています。1047名解雇の不当労働行為の真実を明らかにする闘いの場として控訴審は一審に劣らず重要です。

亡くなった前弁護団長の葉山岳夫先生はかつて国鉄闘争全国運動の会議の席上で、「JRに法的責任があることがはっきりしてきた…それにふたをしようとする動きに対し、ふたをどう跳ね上げさせるかで勝利が決定してくると思います。この裁判は階級闘争の一種であると思います。全社会的・全労働運動的な課題として取り組んでいきたい。そのことによって勝利の展望がつかめると思います」と語り、「法廷闘争で全力を尽くしますが、裁判闘争は法廷闘争に限られるものではありません。裁判所の外での大衆的な運動が裁判闘争を支え、押し上げます」と言って一例として最高裁での不当労働行為確定を実現させた10万筆署名運動の成果を高く評価していました。

一審とは違って東京高裁での控訴審は「短期決戦」が予想されます。いま一度国鉄1047名解雇撤回・JR復帰判決を求める怒涛の東京高裁署名を達成しましょう。

誇りを持ち、絶対に  
解雇を撤回させる



中村仁  
国鉄1047名解雇者当該

国鉄1047名解雇撤回・JR復帰闘争への長年のご支援、本当にありがとうございます。これまでいただいた支援は運動で返すしか無いと思っています。

不当労働行為があって私たちは解雇されたんです。最高裁でも「不当労働行為だった」と認めさせて、大きな風穴を開けました。そして、



浅川雅己  
国鉄闘争全国運動呼びかけ人

## 1047名解雇撤回 闘争の今日的意義

この裁判の発端は、国鉄の分割・民営化にあります。当時の首相、中曽根康弘は「国鉄が解体すれば総評も崩壊する」と明言し、闘う労働組合を破壊し、労働戦線を右翼的に再編することを目的としていました。この事実を踏まえ、1047名解雇撤回闘争の今日的な意義を再認識する必要があります。

総評解体を通じて結成された「連合」は、先の衆議院議員選挙で大敗した自公政権を支援する国民民主党の有力な支持母体です。連合は戦時体制構築の補完勢力の一翼を担っています。

労働戦線においても、産別労働運動や階級的労働運動を解体し、「労使自治」の名のもとに労働

組合に代わる労使「協議」の枠組みを資本の主導で構築しようとする経団連の動きがあります。JR東による社友会の再編もこうした試みの一環と見なすことができます。

これは、労働者の声を抑え込み、企業側の意向を優先する体制を強化するためと考えられます。昌一金属に対する倒産・身売り攻撃も、国鉄の分割・民営化の手法を参考にしています。

このように反動攻勢の最初の一撃であった国鉄解体との闘いは、産別労働運動と、労働運動の主導による零細事業の協同組合化によって、独占資本の支配に対抗した関西地区生コン支部の闘いや昌一金属労組をはじめとする港合同労組の闘いと並んで総資本の戦争策動と直接対峙する反撃の突破口です。

結審を強行した7月13日の裁判での常軌を逸した挑発的な訴訟指揮は、司法の反動化の表れであり、この法廷闘争によって不採用基準を作ったのはJR設立委員会だったという事実が明らかになったことに対する焦りの表れでもあります。法廷闘争と現場闘争との連携によって敵を追い詰めてきたということでもあると思います。「戦争を止め社会を変える力」をふり絞って闘い抜きましょう。

## 不当労働行為は確定 した！JRに戻せ！



山本弘行  
国鉄闘争全国運動呼びかけ人

国労本部と決別し踏ん張って来た「闘う闘争団」が、2010年4月9日、「人道的解決」に屈し解雇撤回の旗を降ろしました。

「この様な和解案に屈し、労働者の未来を捨て去ってしまっているのか」、「本当にここで国鉄闘争の火を消してしまっているのか」

原則的に闘いを堅持する中から労働組合の可能

性を切り開いて来た動労千葉から、新たな全人民的な運動体「国鉄闘争全国運動」の立ち上げが呼び掛けられました。

「第2の国鉄分割・民営化」とも言える外注化・非正規職化攻撃が「外注革命」の名の下に吹き荒れ、数千万の労働者が生きるために呻吟し怒りを鬱積させていました。そんな時、私には、この呼び掛けに応える以外の選択肢はなく、呼び掛け人に加わることになりました。

国鉄闘争全国運動は2015年、集团的自衛権を軸とする安保法制との闘いの先頭に立つと共に、JRが策定した国鉄労働者の不採用基準（採用基準そのもの）が不当労働行為であることを最高裁に確定させしめました。

私たちを取り巻く情勢は、国鉄闘争の堅持・拡大を強く求めています。“不当労働行為は確定した！国鉄労働者1047名をJRに戻せ！”を高々と掲げ、共に闘い抜きましょう。